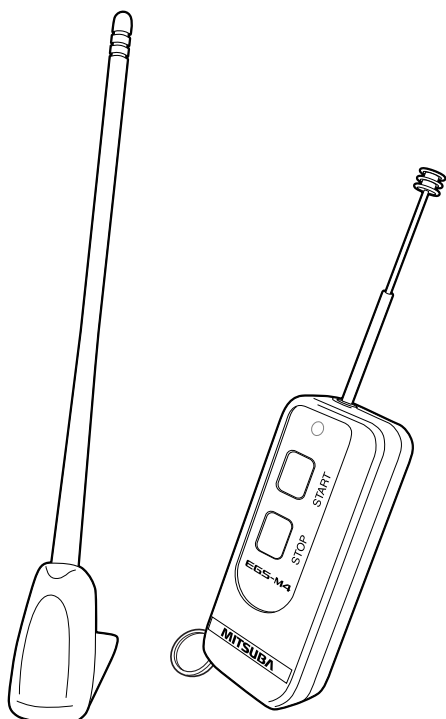


MITSUBA

リモコンエンジンスターター




EGS-M4

取付・取扱説明書（保証書付）



- ☆このたびは、EGS-M4をお買い上げ頂きましてありがとうございます。
- ☆ご使用になる前に、本冊子を必ずお読み頂き、正しくご使用下さい。
- ☆お読みになった後も、本冊子は必要なときご利用出来るように大切に保管して下さい。
- ☆本商品を譲渡される場合や別の車に取り付け直す場合も、本冊子を必ず商品に付帯させ、お使いになる方がいつでも見られるようにして下さい。
- ☆本商品は日本国内でのみご使用出来ます。

この取付・取扱説明書では安全上重要な項目に下記のマークを表示しています。各マークの意味は次の通りです。

-  **危険** …… 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを意味します。
-  **警告** …… 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを意味します。また、法律に違反することを意味します。
-  **注意** …… 取り扱いを誤った場合、傷害を負う危険が想定されることを意味します。また、商品を損傷、故障させる恐れがあることを意味します。

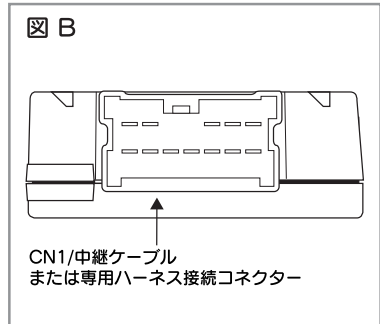
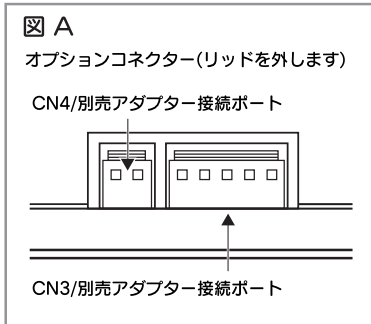
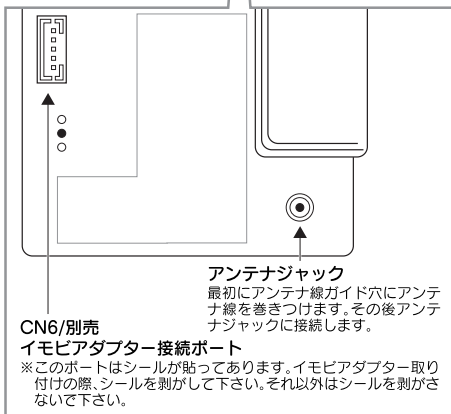
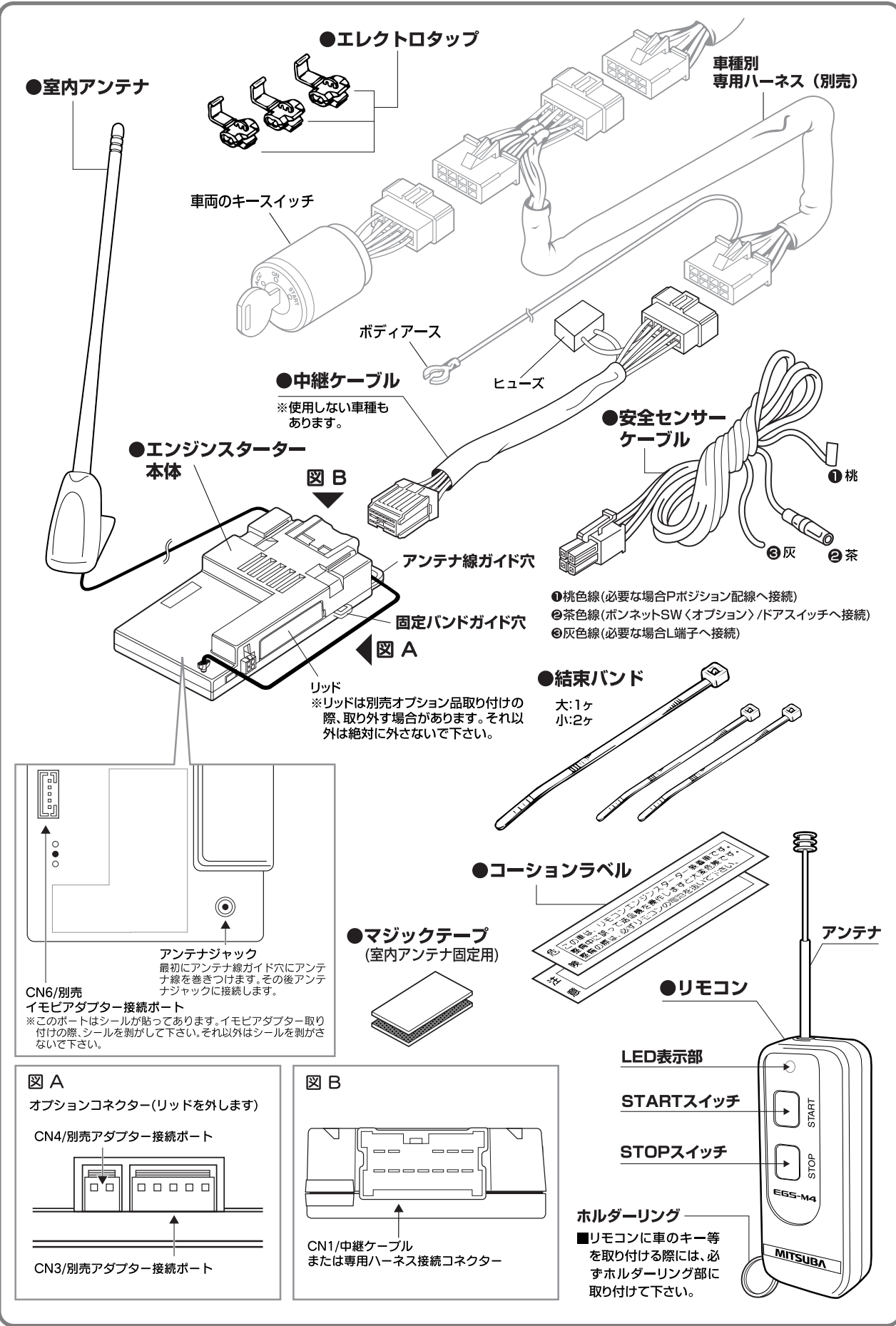
 **注意**

本機でエンジンをかけているときは、エアコン（ヒーター）以外のスイッチはOFFにして下さい。リヤ熱線や大容量オーディオ等を併用されますと、一部の車種ではハーネス接続部周辺が発熱し故障の原因となります。

U-PZ-0428

パッケージ内容

※接続前に、内容をお確かめ下さい。



はじめに	<ul style="list-style-type: none"> ■パッケージ内容 2 ■目次 3 ■取り付け可能な車の条件 4 ■安全に使用するための注意 4~5 <ul style="list-style-type: none"> □使用上の注意 (4) □安全上の注意 (4~5) 	はじめに
取り付け作業	<ul style="list-style-type: none"> ■取り付け前の準備 6 ■取り付け概念図 6 ■専用ハーネス・エンジンスターター本体の接続 7 ■オートマチック車の登録 8~9 ■動作確認をします 9 <ul style="list-style-type: none"> □エラー発生時のQ&A (9) ■仕上げ 10 <ul style="list-style-type: none"> □室内アンテナの取り付け (10) □未使用端子の処理、エンジンスターター本体の取り付け (10) □コーションラベルの貼り付け (10) 	取り付け作業
操作方法	<ul style="list-style-type: none"> ■リモコンでエンジン始動 11 ■リモコンでエンジン停止 11 ■タイマーで自動停止 11 ■アイドリング時間の設定 12 ■ターボタイマー機能について 13~14 <ul style="list-style-type: none"> □ターボタイマーの設定／解除方法 (13) □ターボタイマーの使用方法 (14) □リモコンでターボタイマー停止 (14) ■スリープ機能について 14 ■車を車検・整備に出すときは 14 ■ドアタイマー機能について 15 	操作方法
オプション	<ul style="list-style-type: none"> ■L端子検出方式への変更 16 ■始動検出方式の切替 16~17 ■キー始動学習機能の設定 17 ■グロー時間の切替 18 ■ドアスイッチ配線を行う場合 19 <ul style="list-style-type: none"> □全席ドアを検出させる場合の配線方法 (19) ■ボンネットスイッチ（別売）を取り付ける場合 20 ■ボンネットスイッチ（別売）取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う場合 20 ■オプション品（別売）のご案内 20 ■オプション品（別売）接続時の注意事項 21 	オプション
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■メンテナンス 21 <ul style="list-style-type: none"> □電池の交換方法 (21) □リモコンを紛失したときは (21) ■故障かな?と思ったら 22 ■仕様 23 <ul style="list-style-type: none"> □エンジンスターター本体のブザー音について (23) □保証規定 (23) ■アフターサービスについて 24 <ul style="list-style-type: none"> □保証書 (24) 	その他

取り付け可能な車の条件

●「適応車種一覧表・EGSシリーズ」に記載されている車種であること。

他のエンジンスターター、もしくはターボタイマー用ハーネスを流用・加工しての取り付けは絶対にしないで下さい。「適応車種一覧表・EGSシリーズ」をよくご確認の上、車に適合した当社製専用ハーネスをご使用下さい。

●スターター作動時間が3秒以内でエンジンが始動出来る車であること。

適応車種は、以下の条件を考慮して選定しております。

- オートマチック車であること。(マニュアルトランスミッション車には取り付け出来ません。)
- 国産車であること。
- 12V車であること。
- 電子燃料噴射装置搭載車であること。

安全に使用するための注意

使用上の注意

●シフトレバーは必ずPレンジに入れて使用して下さい。

Nレンジでは使用しないで下さい。パーキングブレーキは、必ずかけて下さい。一部の車種では、リモコンでエンジン始動後そのまま走行し、その後キーでエンジンを停止するとPポジション以外でもキーが抜ける場合がありますのでご注意ください。なお、このような車種では、ドアスイッチ配線を行い乗車前に一旦エンジンを停止させ、キーで再始動すればPポジション以外でキーが抜けることはありません。

●オートライト装着車に取り付けの場合、オート状態のまま夜間にリモコンにてエンジンを始動すると、車のライトが点灯してしまい、リモコン停止や自動停止後に消灯しません。そのためバッテリー上がりの原因となりますので、ライトスイッチはOFFの状態でご使用下さい。一部の車種では「オートライトアダプター」(別売)をお取り付け頂くことで、オート状態でも使用出来るようになります。

●リモコンドアロックあるいは、キーレスエントリー装着車では、エンジン駆動中(本機リモコンでのエンジン駆動中も含む)リモコンによるドアのLOCK/UNLOCK操作が出来なくなる車種があります。一度エンジンを止めるか、キーでドアを開けて下さい。

●キーでエンジンを始動した後に、充電警告灯が消えない車は、エンジンスターターを使用せずに車の点検整備をして下さい。

●オートチルトおよびマイコンプリセットステアリング装着車にお取り付けの場合、リモコンでのアイドル中に、車のキーを差し込んでもステアリング機能は働きません。エンジンを止めて、再度キーを使ってエンジン始動を行って下さい。ドアスイッチ配線を行うことで、ドアを開けると同時にエンジンを停止させることも出来ます。詳しくは19ページを参照して下さい。

●リモコンを操作するときはアンテナを十分に伸ばして下さい。電波到達距離は、周囲の環境、室内アンテナの設置状態、リモコンの扱い方等によって変化します。一般的に建物内や周囲に鉄筋コンクリートの建築物があったり、高圧送電線や大出力の無線等のノイズ発生源があったりすると到達距離は短くなります。また、送信時にアンテナを収納したりリモコンを手等で覆うと短くなりますので、ご注意ください。

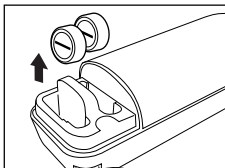
●寒冷地では、エンジンがかかりにくいことがあります。キー操作のみで3秒以内にエンジンが始動するように車を整備して下さい。

●バッテリーの弱っている車や改造車では、正常にエンジン始動出来ない場合があります。

●環境保護のため必要以上のアイドルは行わないで下さい。

安全上の注意

⚠ 危険



下記の場合には、リモコンの電池を抜いて下さい。事故の恐れがあります。

- 車検、整備等で車を預ける場合。
- 車検、整備等を行う場合。
- この商品の取り扱い方を知らない方が運転する場合。

●車にボディカバー等を掛けたまま使用しないで下さい。火災の恐れがあります。

●リモコンでエンジンを始動するときは、車の近くに燃えやすい物がないことを確認して下さい。火災の恐れがあります。

●密閉されたガレージ内では使用しないで下さい。排気ガスが充満して危険です。

●人(特にお子様)やペットが車内にいるときは、絶対にエンジンを始動しないで下さい。お子様による車の操作やペットの思わぬ動きが重大事故につながる恐れがあります。

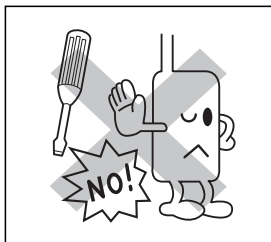
●リモコンは、お子様の手の届く所には、置かないで下さい。事故の恐れがあります。

●ボンネットを開けるときはリモコンの電池を抜いて下さい。事故の恐れがあります。

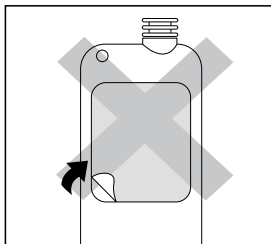
安全のためボンネットスイッチ(別売)の取り付けをお勧めします。

安全上の注意

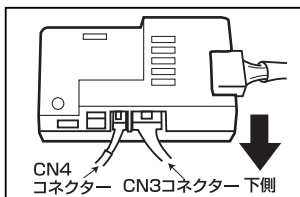
警告



この商品は特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解・改造することは法律で禁じられていますので絶対にしないで下さい。



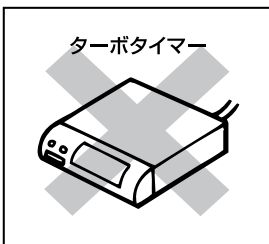
リモコン裏面のラベルをはがしたり、ラベルの無いものを使用することは法律で禁じられていますので絶対にしないで下さい。



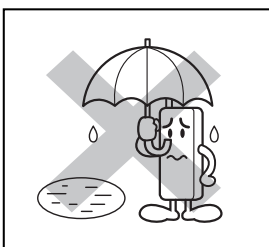
エンジンスターター本体のケーブル接続端子部に、ドライバー等の金属を接触させたり、異物を入れたりしないで下さい。内部でショートし発火する恐れがあります。オプション品の取り付け等で、リッドを外した場合には、CN3、CN4のコネクタ面が下を向くように設置して下さい。

- 公道では使用しないで下さい。公道上での使用は違法となります。
- 斜面で使用される場合は、必ず輪止めをして下さい。

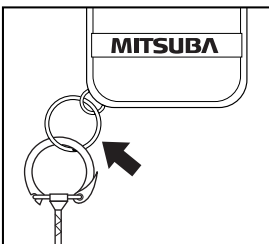
注意



他のエンジンスターターやターボタイマー、盗難警報装置との併用は、絶対しないで下さい。故障や誤動作の原因となります。

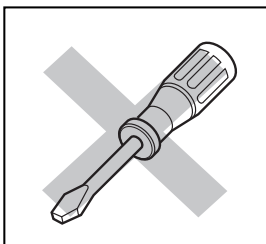


本機は水に濡らさないで下さい。リモコンを衣類のポケット等に入れたまま、洗濯しないように充分ご注意下さい。故障の原因となります。



リモコン本体にキーホルダー等を取り付ける場合は、必ず付属のホルダーリングに取り付けて下さい。破損の原因となります。

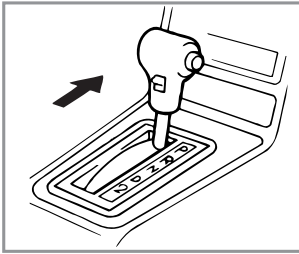
- 本機でエンジンをかけているときは、エアコン（ヒーター）以外のスイッチはOFFにしてください。リヤ熱線や大容量のオーディオ等を併用されますと、一部の車種ではハーネス接続部周辺が発熱し故障の原因となります。



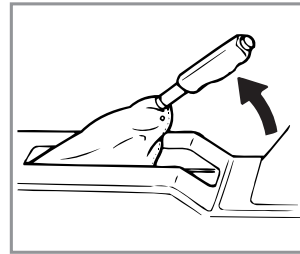
本機の内部に異物を入れないで下さい。また、分解、改造は絶対しないで下さい。故障の原因となります。

- 暖気運転を行った直後に運行前点検を行うと火傷をする恐れがあります。ご注意下さい。
- ヒューズ切れの直後はヒューズ部が高温となりますので、交換には注意して下さい。なお、一部車種については動作中、ヒューズ周辺の温度が上がる場合がありますのでご注意下さい。
- リモコンは落としたり、硬い物にぶつけないで下さい。また、アンテナは無理な力で引き伸ばしたり、収納したりしないで下さい。故障の原因となります。
- リモコンは高温になる場所には放置しないで下さい。変形、変色や故障の原因となります。
- リモコン本体が汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよくしぼってふき、乾いた布でもう一度ふいて下さい。ベンジン、シンナー等は絶対に使用しないで下さい。変形、変色や故障の原因となります。

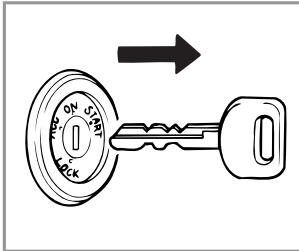
取り付け前の準備



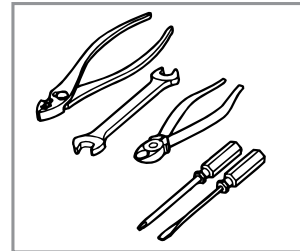
●シフトレバーは、必ずパーキングレンジに入れて下さい。



●パーキングブレーキは確実にかけて下さい。

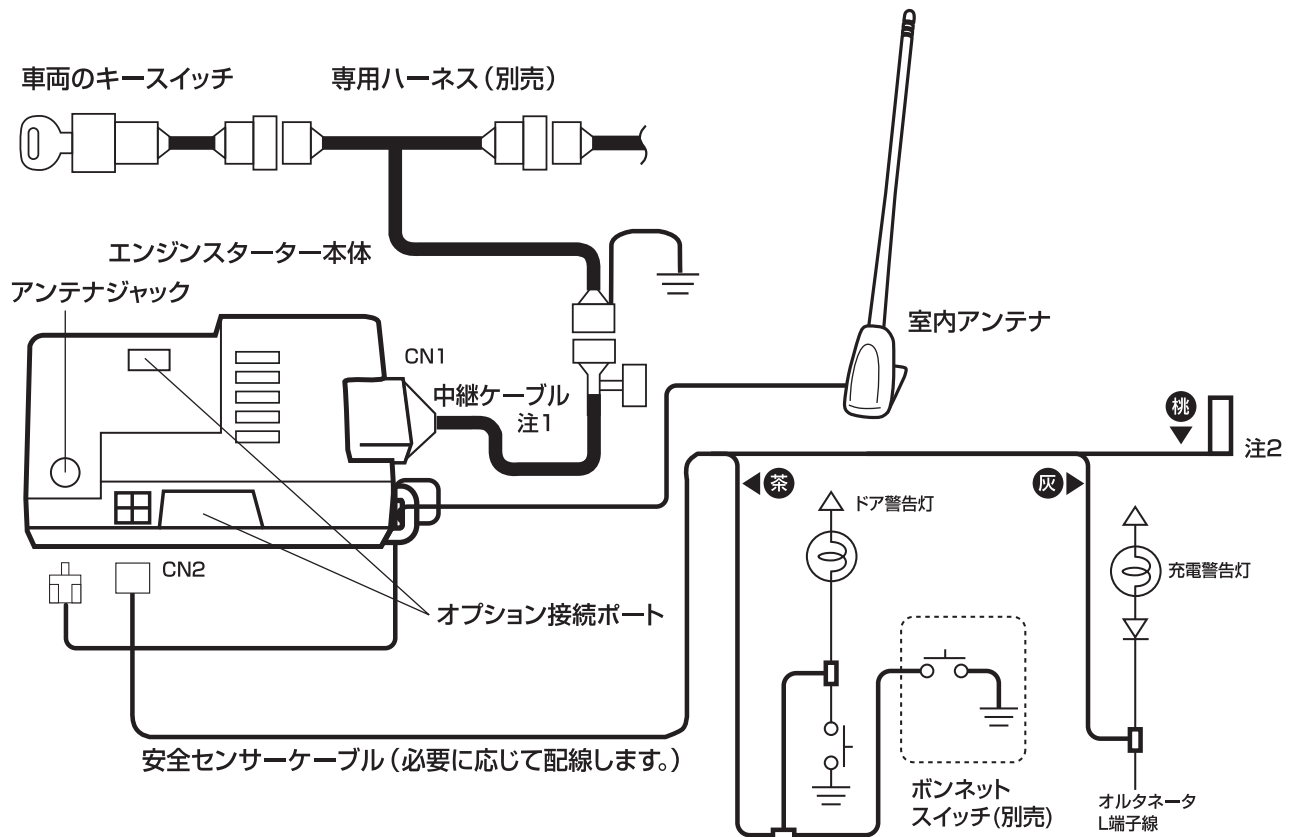


●車のキーは必ず抜いて下さい。
一部の車種で、カードキー等によるエンジン始動システム搭載車では、不用意にエンジンがかからないようにして下さい。



●取り付け工具について。
プラスドライバー・プライヤー・ニッパ・スパナ・テスター等。工具は本商品には同梱されていないので、別途ご用意下さい。

取り付け概念図



注1.中継ケーブルは使用しない車種もあります。

注2.専用ケーブルに付属の「専用ハーネス接続時の注意事項」に配線指示がある場合のみ接続。

専用ハーネス・エンジンスターター本体の接続

ステップ 1

キースイッチの配線カプラーを探します。

配線カプラーの位置は大別すると次のようになります。詳しくは「適応車種一覧表・EGSシリーズ」をご参照下さい。

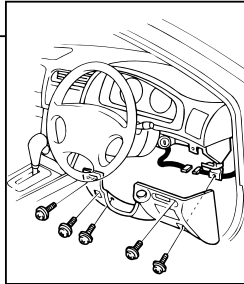
メモ キースイッチの配線カプラーは基本的に車種別専用ハーネスのカプラーと同形状なので、それを目安にして下さい。

■タイプ1

- アンダーカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

メモ

アンダーカバーを外す際、車種によってはスピーカーカバー内や、コインポケット等に隠しネジが付いている場合があります。

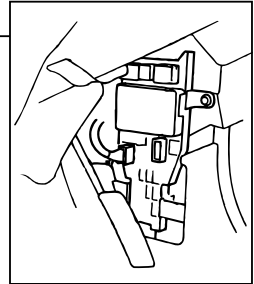


■タイプ3

- ヒューズボックスやジャンクションブロックに直接、接続されているタイプ。

メモ

ホンダ車の場合、アクセルペダル横のヒューズボックス内に接続されている場合もあります。

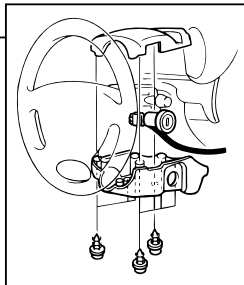


■タイプ2

- ステアリングコラムカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

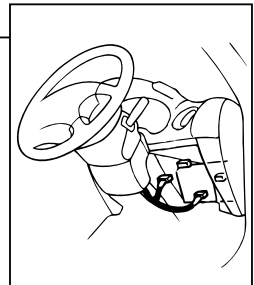
メモ

ステアリングコラムカバーを外す際、車種によってはステアリングを90度位回さないとネジが外せない場合があります。



■タイプ4

- 配線カプラーが2箇所に分かれているタイプ。それぞれの位置が離れているものもあります。

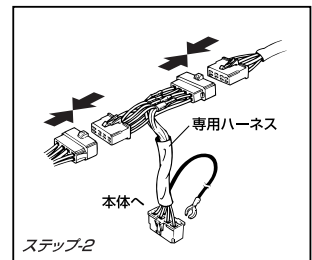


ステップ 2

専用ハーネスを接続します。

発見したキースイッチの配線カプラーを一旦外します。車種別専用ハーネスを、外したカプラーの間に割り込ませます。専用ハーネスに「専用ハーネス接続時の注意事項」が同梱されている場合は、追加配線を行って下さい。

注意 カプラーの接続は振動で外れないように、最後まで確実に差し込んで下さい。本体がうまく動作しないことがあります。



ステップ2

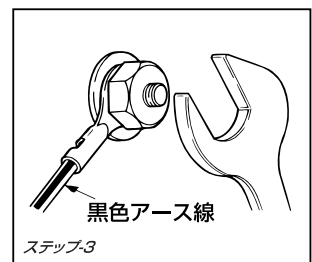
ステップ 3

アース線を接続します。

車種別専用ハーネスから出ている、黒色アース線を車体の金属部分に確実に締め付けます。これにより間接的にバッテリーのマイナスに接続されます。接続箇所を充分確認の上、適正な場所に接続して下さい。

注意

塗装されている金属部分や、車の振動等で緩んでしまう場所に取り付けしないで下さい。動作が不安定となり、オートマチック車の登録情報が消去されたり、エンジンが始動しない等の不具合が生じます。



ステップ3

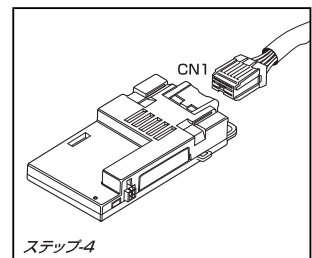
ステップ 4

エンジンスターター本体と専用ハーネスを接続します。

エンジンスターター本体のコネクター部(CN1)に中継ケーブルを経由して専用ハーネスを接続します。

メモ

中継ケーブルを使用しない車種もあります。コネクター部(CN1)の接続をすると、エンジンスターター本体から「ブーブー ブーブー…」と断続音が鳴りはじめ、「オートマチック車の登録」動作が開始されます。断続音は約3分経過すると自動的に停止します。



ステップ4

以上で接続は終了です。

次に必ずオートマチック車の登録をして下さい。

オートマチック車の登録

マニュアル車への取り付け防止のためのオートマチック車判別機能を搭載しています。
(取り付けたときにオートマチック車の認識作業を行いますので、マニュアル車にはお取り付け出来ません。)

注意 登録作業はステップ1から終了までを3分以内に行ってください。もしも時間内に作業が完了しなかった場合は、エンジンstarter本体のブザー音が途中で鳴り止み、作業が中断されます。このときは、キーをOFFの位置にして、もう一度ステップ1からやり直して下さい。

ステップ1

リモコンのSTOPスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを引き出して、STOPスイッチをLEDが点灯するまで押して下さい。このとき、エンジンstarter本体から、「プープー プープー…」と断続音が鳴り続けます。

メモ ブザーが鳴らない場合は、アースが確実に取れているか、また車種別専用ハーネスの品番が間違っていないか、再確認して下さい。



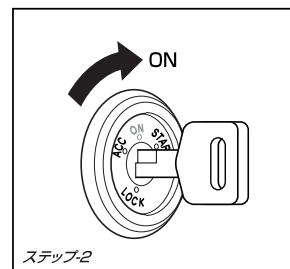
ステップ1

ステップ2

キーを差し込み、ONの位置にします。

このとき、エンジンstarter本体からの断続音が、「ププッ ププッ…」の2連音へと変化します。

メモ このとき、誤ってエンジンを始動させないで下さい。もしも始動させた場合、キーをOFFの位置にして、もう一度ステップ1からやり直して下さい。



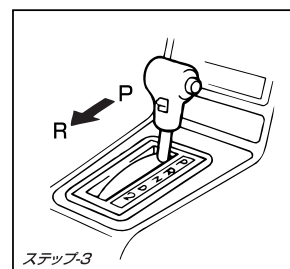
ステップ2

ステップ3

シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

エンジンstarter本体からの断続音が、「プププッ プププッ…」の3連音へと変化します。

注意 ・シフト操作は、ブレーキを踏んでゆっくり操作して下さい。断続音に変化することを必ず確認して下さい。断続音に変化しない場合は一度作業を中断し、専用ハーネス付属の「専用ハーネス接続時の注意事項」を確認して下さい。(追加配線を行う必要があります。)



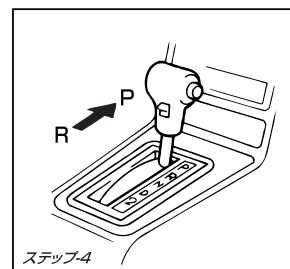
ステップ3

ステップ4

シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

このとき、エンジンstarter本体から「プププッ プー」と音が鳴り、その後、「ププッ ププッ…」の2連音へと変化します。

メモ シフト操作はブレーキを踏んでゆっくり操作して下さい。断続音に変化することを必ず確認して下さい。



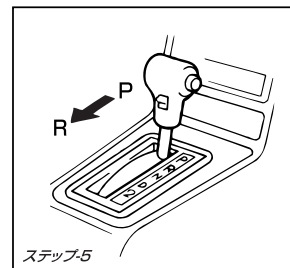
ステップ4

ステップ5

再度、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

エンジンstarter本体からの断続音が「プププッ プププッ…」の3連音へと変化します。

メモ シフト操作はブレーキを踏んでゆっくり操作して下さい。断続音に変化することを必ず確認して下さい。



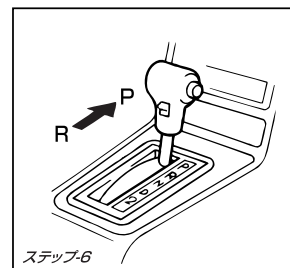
ステップ5

ステップ6

シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

このとき、エンジンstarter本体から「プププッ プー」と音が鳴り、その後断続音が「ププッ ププッ…」の間欠音へと変化します。

メモ シフト操作はブレーキを踏んでゆっくり操作して下さい。断続音に変化することを必ず確認して下さい。



ステップ6

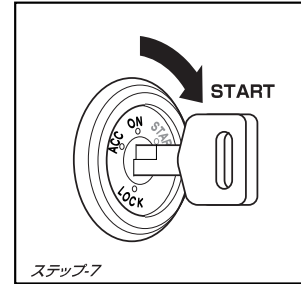
オートマチック車の登録（つづき）

ステップ 7

キー操作でエンジンを始動します。

エンジンスターター本体から「プブプブー」と音が鳴りオートマチック車の登録が終了したことを知らせ、鳴り止みます。

注意 周囲の安全を確認してからエンジンを始動して下さい。
終了音「プブプブーッ」がして鳴り止んだことを確認して下さい。



ステップ7

ステップ 8

キーをOFFにします。 以上でオートマチック車の登録は終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス（アース線）を外すとオートマチック車の登録情報が消去されます。この場合には再度オートマチック車の登録を行って下さい。

動作確認をします



警告

周囲の安全を確認の上、パーキングブレーキをしっかりとかけて下さい。
シフトレバーは、必ずPレンジにして下さい。重大な事故につながる恐れがあります。

ステップ 1

リモコンのSTARTスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、STARTスイッチをLEDが点灯するまで押します。

ステップ 2

エンジンが始動します。

エンジンスターター本体が信号を受信すると、数秒後にスターターが回りエンジンが始動します。エンジン始動後は、エンジンスターター本体から警告音「ブッ」が数秒間隔で鳴り続けます。一度で始動しない場合は、その後2回のリトライ（再始動）動作を行います。

メモ 一部のデジタルメーター搭載車ではリモコン始動後少し遅れてメーターパネルが点灯することがあります。

ステップ 3

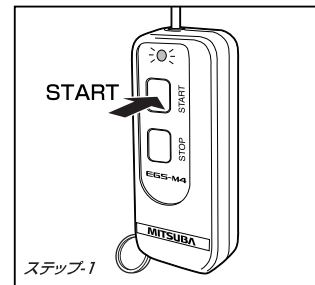
シフトセンサーの確認をします。

リモコンでエンジンが始動した後、キーを差さずにフットブレーキをしっかりと踏みながら、シフトレバーをゆっくりとPレンジからRレンジへと動かします。このとき、エンジンが止まることを確認します。

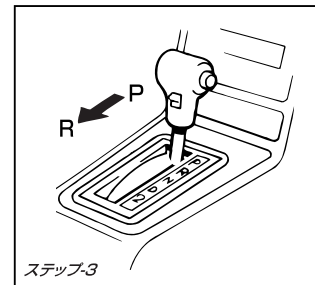
メモ 車種によっては、キーを差さないとシフトレバーが動かせないものもあります。その場合は、キーをACCの位置まで回して確認して下さい。

以上でエンジンスターターの動作確認は終了です。

正常に動作しない場合は、下表を参考に対処して下さい。



ステップ1



ステップ3

エラー発生時のQ&A

Q (症状)	A (対処方法)
●エンジンは始動しているのに数秒で停止してしまい、自動的に再始動（リトライ）が行われてしまうのですが…？	▶ エンジンの自動始動検出が、うまく行われていないと考えられます。詳しくは、16ページの「L端子検出方式への変更」を参照して下さい。
●エンジンは始動していないのにメーターパネルが点灯したままになってしまうのですが…？	▶ エンジンの自動始動検出が、うまく行われていないと考えられます。詳しくは、16ページの「始動検出方式の切替」を参照して下さい。
●寒冷時に始動がうまく行われないのですが…？	▶ 一部のディーゼル車等でグロー（予熱）時間が足りないことが考えられます。詳しくは、18ページの「グロー時間の切替」を参照して下さい。
●スターターモーターの駆動時間が短いため、1回目のスターター駆動でエンジンがかからず、リトライしてしまうのですが…？	▶ スターターモーターの駆動時間を学習させることが出来ます。詳しくは、17ページの「キー始動学習機能の設定」を参照して下さい。
●リモコン操作による始動後にABS警告灯が消灯しないのですが…？	▶ キー始動学習を行うことで警告灯が消灯するようになります。詳しくは、17ページの「キー始動学習機能の設定」を参照して下さい。
●リモコン操作によるエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しないのですが…？	▶ 専用ハーネスの品番が正しいか確認して下さい。品番が正しい場合は、当社技術サービスまでご連絡下さい。

室内アンテナの取り付け

ステップ 1

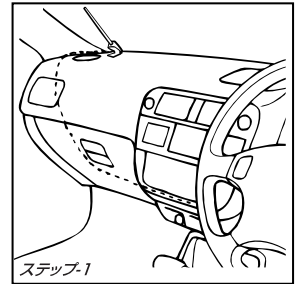
室内アンテナを設置します。

ダッシュボードのサイドピラーから10cm以上離し、出来るだけフロントガラスに近い平らな場所に設置して下さい。



警告

室内アンテナは、運転の妨げにならない場所に設置して下さい。アンテナを手前寄りに取り付けた場合、急ブレーキ等によりアンテナに顔をぶつけてケガをする恐れがあります。ガラス面に近い場所にしっかり固定して下さい。エアバック装着車には、エアバックカバー部へ固定しないで下さい。エアバック作動時にケガをする恐れがあります。

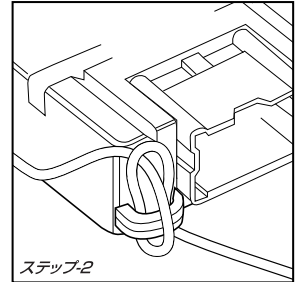


ステップ 1

ステップ 2

エンジンスターター本体のアンテナジャックにアンテナ線を差し込みます。

アンテナ線をアンテナ線ガイド穴に通してからアンテナジャックに差しして下さい。



ステップ 2

未使用端子の処理、エンジンスターター本体の取り付け

ステップ 1

安全センサーケーブルを接続したときの未使用端子を絶縁処理します。

安全センサーケーブルを接続してドアスイッチ配線を行わなかった場合は、ドアスイッチ配線に付いているギボシ端子をビニールテープ等で絶縁処理して下さい。



注意

絶縁処理は確実に行って下さい。ショートして誤作動、故障の原因となります。

ステップ 2

配線したケーブル類を整理します。

これまでに配線した、ケーブル類、専用ハーネス等をビニールテープや付属の結束バンド等で確実に固定して下さい。



警告

配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートの原因となり、本機や車の故障、さらには車両火災を起こす可能性があります。ステアリングシャフトやブレーキペダルの可動部付近には固定しないで下さい。運転の妨げになり事故の原因となります。

ステップ 3

エンジンスターター本体を設置します。

エンジンスターター本体を運転操作の邪魔にならない場所に、付属の結束バンド等を使用して設置します。



警告

エンジンスターター本体は、直射日光の当たる場所、エアコンの吹き出し口等の高温になる場所や足下の水の跳ね返りや外部からの水に触れる場所には設置しないで下さい。故障の原因となります。また、ステアリングシャフトやブレーキペダルの可動部付近には設置しないようにして下さい。エンジンスターター本体が干渉した場合、運転操作を妨げる恐れがあります。設置するときは、コネクター部 (CN1) およびカバー部へ無理な力をかけたり、強くまげられた状態で固定しないで下さい。接続部周辺が発熱し、故障の原因となります。

ステップ 4

外したアンダーカバー等を元に戻します。

コーションラベルの貼り付け

エンジンルーム内の目立つ場所に貼って下さい。貼り付ける際には汚れや油分等をきれいに除去して下さい。



危険

ボンネットを開けて作業している際に、誤って始動操作が行われると大変危険です。必ず目立つ場所に貼って下さい。

以上で取り付けは終了です。

リモコンでエンジン始動

ステップ 1

あらかじめ車を下記の状態にします。

1. パーキングブレーキを確実にかける。
2. シフトレバーはPレンジに入れる。
3. 必要に応じてエアコンをセットする。
4. オートライト装着車は、ライトスイッチをOFFにする。
5. キーを抜く。



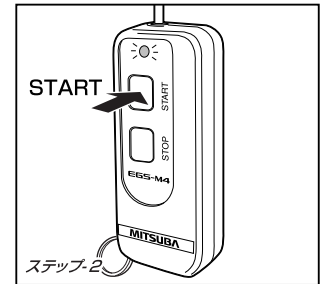
注意

リモコンでエンジンをかけるときは、エアコン（ヒーター）以外のスイッチはOFFにしてください。リヤ熱線や大容量のオーディオ等を併用されますと、一部の車種ではハーネス接続部周辺が発熱し故障の原因となります。

ステップ 2

リモコンのロッドアンテナを引き出してSTARTスイッチを押します。

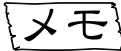
リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、STARTスイッチをLEDが点灯するまで押します。



ステップ 3

車のエンジンが始動します。

数秒後、スターターが回りエンジンが始動します。一度で始動しない場合は、その後2回のリトライ（再始動）を行います。



リモコンによるエンジン駆動中は、リモコン始動直後から数秒間隔でエンジンスターター本体から警告音「ピッ」が鳴り始め、残り時間に連動して徐々に短くなり、自動停止1分前は連続音へと変わり、使用者にキー以外でのエンジン始動を知らせます。

ステップ 4

走行します。

車のキーを差し込み、ONの位置まで回して下さい。あとは通常通り走行出来ます。なお、ドアスイッチへの配線を行っている場合、ドアを開けるとエンジンは停止しますので、キーにて再度エンジン始動して下さい。



警告

キーを回す際に、誤ってSTART (STT) の位置まで回すとスターターモーターを傷める場合があります。

操作方法

リモコンでエンジン停止

本機によるアイドリング中は、リモコン操作でエンジンを停止することが出来ます。

ステップ 1

リモコンのロッドアンテナを引き出してSTOPスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、STOPスイッチをLEDが点灯するまで押します。

ステップ 2

車のエンジンが停止します。

タイマーで自動停止

始動後約20分（初期状態）でエンジンは自動停止します。自動停止するまでのアイドリング時間は「5分／20分／30分」に変更することが出来ます。詳しくは12ページの「アイドリング時間の設定」を参照して下さい。

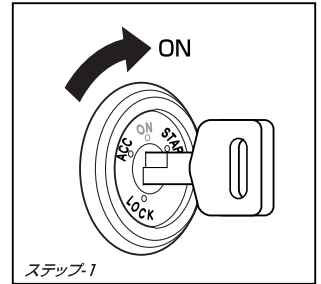
アイドリング時間の設定

リモコンによるエンジン始動の自動停止時間を「5分/20分/30分」のいずれかに変更することができます。お取り付け時(初期状態)のアイドリング時間は「20分」です。

ステップ 1

キーをONの位置にします。

メモ このとき、誤ってエンジンを始動させないで下さい。以降の操作が出来ません。

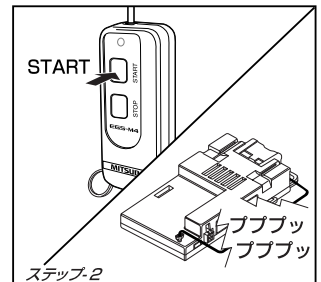


ステップ 2

10秒以内にリモコンのSTARTスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブブブッ ブブブッ…」の3連音が鳴ります。

メモ 10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



ステップ 3

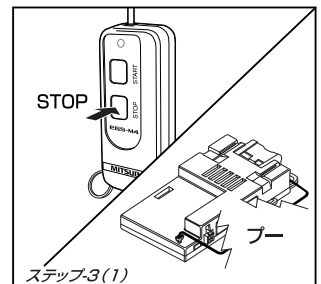
30秒以内に次の操作を行います。

エンジンスターター本体からの断続音「ブブブッ ブブブッ…」開始から30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ブーブー」という音がして、アイドリング時間が「20分」に設定されます。

(1) 『5分』に設定する場合

リモコンのSTOPスイッチを押します。

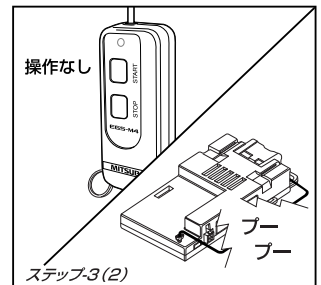
エンジンスターター本体から「ブー」という音がして、「5分」が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



(2) 『20分』に設定する場合

30秒間そのまま放置します。

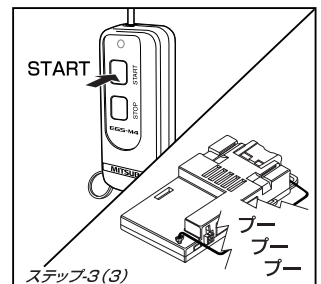
エンジンスターター本体から「ブーブー」という音がして、「20分」が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



(3) 『30分』に設定する場合

リモコンのSTARTスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ブーブーブー」という音がして、「30分」が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ 4

キーをOFFにします。

以上でアイドリング時間の設定は終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

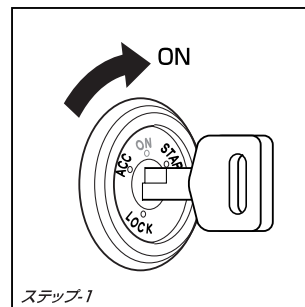
ターボタイマー機能について

ターボタイマーの設定/解除方法

お取り付け時(初期状態)はターボタイマーの設定が解除されています。

ステップ 1 キーをONの位置にします。

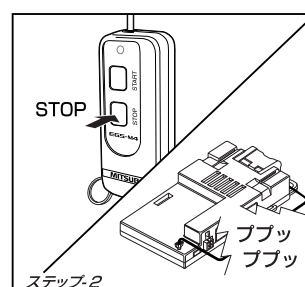
メモ このとき、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。



ステップ 2 10秒以内にリモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブツ ブツ…」の2連音が鳴ります。

メモ 10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。
キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



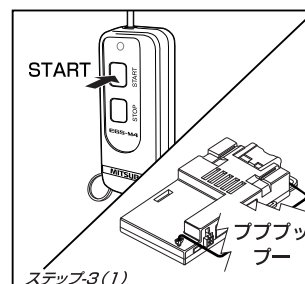
ステップ 3 30秒以内に次の操作を行います。

エンジンスターター本体からの断続音「ブツ ブツ…」開始から30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ピーピー」という音がして、グロー時間が3秒に設定されますのでご注意ください。
詳しくは、18ページの「グロー時間の切替」を参照して下さい。

(1)ターボタイマーを設定する場合

リモコンのSTARTスイッチを押します。

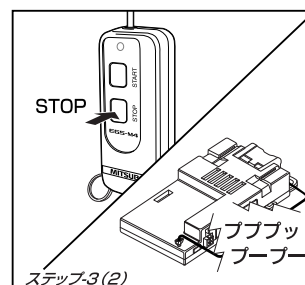
エンジンスターター本体から「ブブブブー」という音がして、ターボタイマーが設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



(2)ターボタイマーを解除する場合

リモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ブブブブー」という音がして、ターボタイマーの設定が解除されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ 4 キーをOFFにします。

以上でターボタイマーの設定/解除は終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

ターボタイマー機能について

ターボタイマーの使用方法

本機のターボタイマー機能は、フルオート方式を採用しています。
アフターアイドルの時間は、車の走行状況に合わせて自動的に設定されます。

ステップ
1

キー、またはリモコンで、エンジンを始動させます。

ステップ
2

走行します。

少なくとも30秒間はエンジンをかけておかないと、ターボタイマーは働きません。

ステップ
3

走行終了後、シフトレバーをPレンジにしてからキーをOFFにします。

エンジンスターター本体から「プッププッ」というカウントダウン音がして、ターボタイマーが作動を開始します。



警告

周囲の安全を確認の上、パーキングブレーキをしっかりとかけて下さい。
シフトレバーは、必ずPレンジにして下さい。



注意

ターボタイマーによるアイドル中は、エアコン(ヒーター)以外のスイッチをOFFにして下さい。リヤ熱線や大容量オーディオ等を併用されますと一部の車種ではハーネス接続部周辺が発熱し故障の原因となります。

- 車によってはターボタイマー作動中にキーが抜けない場合があります。
このような場合は、別売の「日産キーロックアダプター」をご使用下さい。
(中継ケーブルを使用しない車種にはご使用出来ません。)
- 車によっては正常にターボタイマーが作動しない場合があります。
このような場合は、別売の「ターボタイマーストール防止アダプター」をご使用下さい。
(中継ケーブルを使用しない車種にはご使用出来ません。)
- ターボタイマーのアイドル時間は30秒～5分の範囲で自動的に設定されます。

リモコンでターボタイマー停止

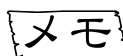
リモコンのSTOPスイッチを押すことにより、ターボタイマー作動中のエンジンを停止させることが出来ます。

スリープ機能について

車を使用しない状態が15日間以上続くと、バッテリーの消耗を抑えるスリープ機能が働きます。スリープ機能が働くと、リモコンによるエンジン始動は出来ません。
スリープ機能を解除するときは、キーを使ってエンジンを始動させて下さい。

車を車検・整備に出すときは

車を車検・整備に出すときや、この商品の取り扱い方を知らない人が運転する場合には、安全のためリモコンの電池を抜いて下さい。



車種別専用ハーネスを外したり、整備の際に車のバッテリー端子を外した場合は、再度オートマチック車の登録からやり直す必要があります。

ドアタイマー機能について

ドアスイッチ配線やボンネットスイッチ（別売）取り付けを行った場合に、ドアタイマー機能を設定することで、リモコン始動中にドアやボンネットを開けても、20秒間はエンジン始動を継続したままに出来ます。
お取り付け時（初期状態）はドアタイマーの設定が解除されています。



注意

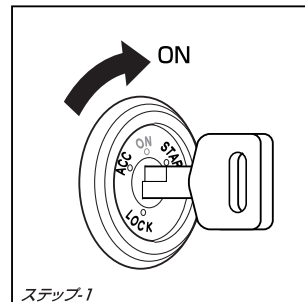
イモビライザー搭載車では、ドアタイマーを設定しないで下さい。ドアタイマーを設定してリモコン始動させると、車両側イモビライザー機能に支障をきたし、盗難や事故の恐れがあります。

ステップ 1

キーをONの位置にします。

メモ

このとき、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。



ステップ-1

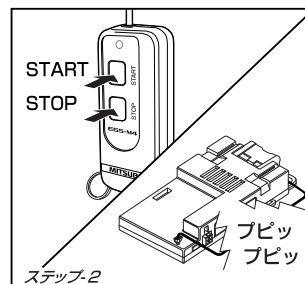
ステップ 2

10秒以内にリモコンのSTARTスイッチとSTOPスイッチを同時に押します。

エンジンスターター本体から「ブピッ ブピッ…」の断続音が鳴ります。

メモ

10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。
キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



ステップ-2

ステップ 3

30秒以内に次の操作を行います。

エンジンスターター本体からの断続音「ブピッ ブピッ…」開始から30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ブーブーピー」という音がして、始動検出方式が通常モードに設定されますのでご注意ください。詳しくは16ページの「始動検出方式の切替」を参照して下さい。

(1)ドアタイマーを設定する場合

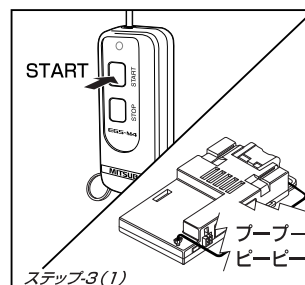
リモコンのSTARTスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ブーブーピーピー」という音がして、ドアタイマーが設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

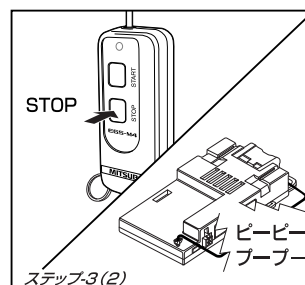
(2)ドアタイマーを解除する場合

リモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ピーピーブーブー」という音がして、ドアタイマーの設定が解除されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ-3(1)



ステップ-3(2)

ステップ 4

キーをOFFにします。

以上でドアタイマーの設定/解除は終了です。

メモ

車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス（アース線）を外した場合には、再度設定する必要があります。

L端子検出方式への変更

注意 すでに付属の安全センサーケーブルがエンジンスターター本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行ってください。安全センサーケーブルは、必ず本機に同梱されたものを使用して下さい。他の商品のものを流用することは出来ません。

ステップ 1

車のオルタネーターから出ているL端子線を探します。

L端子線とは、イグニッションONの位置でエンジンが停止している時、約1~3V、エンジンが駆動している時、約12~14Vになる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)



ステップ 2

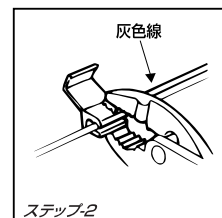
安全センサーケーブルの灰色線を接続します。

安全センサーケーブルの灰色線をグロメット等を利用して、車室内からエンジンルームに引き込み、オルタネーターから出ているL端子線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)



警告

接触不良が起きないように確実に取り付けて下さい。なお、エレクトロタップは防水のためテーピングして下さい。灰色線がボディの金属部分に触れると、ショートを起こし車両故障の原因となる恐れがあります。

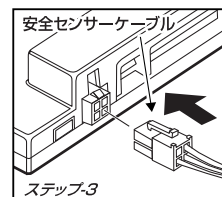


ステップ 3

安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部(CN2)に接続します。

以上でL端子配線は終了です。

リモコンで問題なくエンジン始動出来ることを確認して下さい。



始動検出方式の切替

エンジンは始動していないのにメーターパネルが点灯したままになってしまう場合は、「L端子検出方式への変更」を行ってから始動検出方式を特殊モードに切り替えて下さい。お取り付け時(初期状態)は通常モードに設定されています。

注意

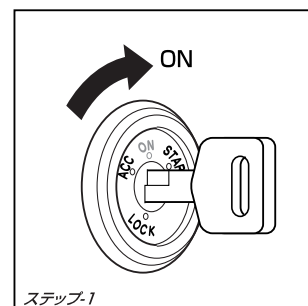
必ず「L端子検出方式への変更」を行ってから変更して下さい。始動検出方式を、特殊モードへ切り替えた場合は、「キー始動学習機能の設定」を行ってもスターターモーターの駆動時間は学習されません。

ステップ 1

キーをONの位置にします。

メモ

このとき、誤ってエンジンを始動させないで下さい。以降の操作が出来ません。



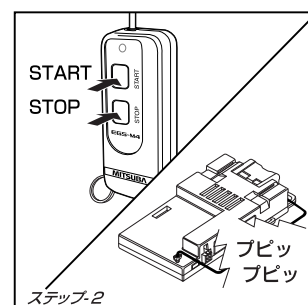
ステップ 2

10秒以内にリモコンのSTARTスイッチとSTOPスイッチを同時に押します。

エンジンスターター本体から「ブピッ ブピッ…」の断続音が鳴ります。

メモ

10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



次のページに進んで下さい。

始動検出方式の切替（つづき）

ステップ 3

30秒以内に次の操作を行います。

エンジンスターター本体から断続音「ブピッ ブピッ…」開始から30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ブーピー」という音がして、始動検出方式が通常モードに設定されます。

(1)特殊モードに設定する場合

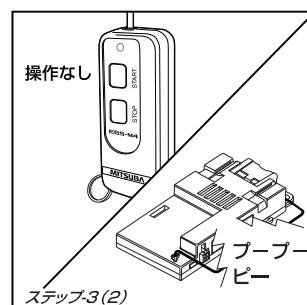
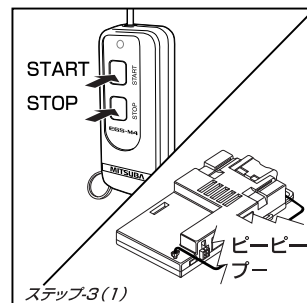
リモコンのSTARTスイッチとSTOPスイッチを同時に押します。

エンジンスターター本体から「ピーピーブー」という音がして、特殊モードが設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

(2)通常モードに設定する場合

30秒間そのまま放置します。

エンジンスターター本体から「ブーピー」という音がして、通常モードが設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ 4

キーをOFFにします。

以上で始動検出方式の切替は終了です。

リモコンで問題なくエンジン始動出来ることを確認して下さい。

メモ 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス（アース線）を外した場合には、再度設定する必要があります。

キー始動学習機能の設定

次のような場合には、キー始動学習機能を設定して下さい。

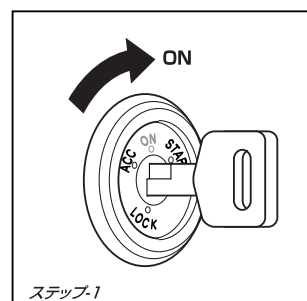
- リモコン始動時にABS警告灯が点灯したままになってしまう。
- スターターモーター駆動時間が短かすぎてエンジンがかかりにくい。

注意 始動検出方法を特殊モードに設定している場合は、スターターモーターの駆動時間を学習することは出来ません。

ステップ 1

キーをONの位置にします。

メモ このとき、誤ってエンジンを始動させないで下さい。以降の操作が出来ません。

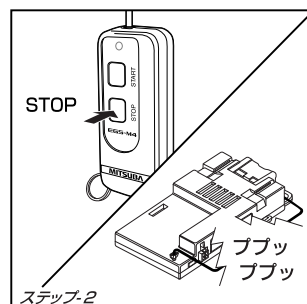


ステップ 2

10秒以内にリモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブッ ブッ…」の2連音が鳴ります。

メモ 10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



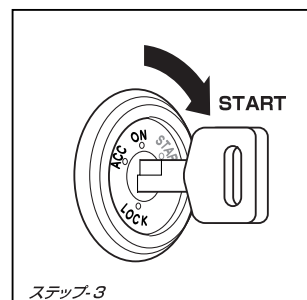
ステップ 3

30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

エンジンスターター本体から「ブブブブー」と音が鳴りキー始動学習が行われたことを知らせ、鳴り止みます。このときにスターターモーター駆動時間を「0.8～3秒」の範囲で学習し、以降リモコン始動時のスターターモーター駆動時間になります。

よって、通常使用時と同一環境下で学習操作を行うと効果的です。

30秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。エンジンスターター本体から「ピーピー」という音がして、グロー時間が3秒に設定されますのでご注意ください。設定をやり直す場合はキーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。詳しくは、18ページの「グロー時間の切替」を参照して下さい。



ステップ 4

キーをOFFにします。

以上でキー始動学習機能の設定は終了です。

リモコンで問題なくエンジン始動出来ることを確認して下さい。

メモ 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス（アース線）を外した場合には、再度設定する必要があります。

グロー時間の切替

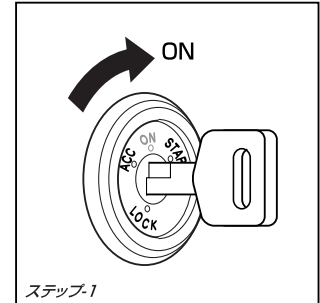
一部のディーゼル車で、グロー(予熱時間)が必要な場合、以下の操作を行うことでグロー時間を設定することが出来ます。グロー時間は6秒、3秒から選択出来ます。お取り付け時(初期状態)のグロー時間は3秒です。

メモ グロー時間とは、イグニッションキーをONにしてからスターターモーターを回す前までの時間のことです。ガソリン車では通常3秒(初期状態)でご使用下さい。

ステップ
1

キーをONの位置にします。

メモ このとき、誤ってエンジンを始動させないで下さい。以降の操作が出来ません。

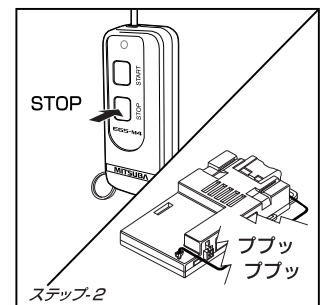


ステップ
2

10秒以内にリモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブッ ブッ…」の2連音が鳴ります。

メモ 10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



ステップ
3

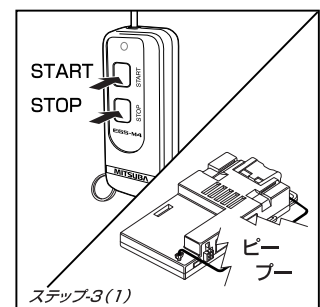
30秒以内に次の操作を行います。

エンジンスターター本体からの断続音「ブッ ブッ…」開始から30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ピーピー」という音がして、グロー時間が3秒に設定されます。

(1)グロー時間を6秒にする場合。

リモコンのSTARTスイッチとSTOPスイッチを同時に押します。

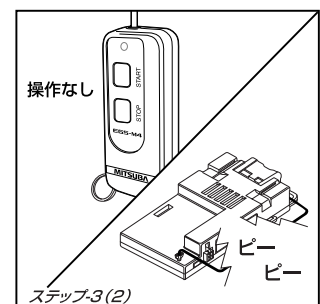
エンジンスターター本体から「ピーピー」という音がして、グロー時間が6秒に設定され、鳴り止みます。



(2)グロー時間を3秒にする場合。

30秒間そのまま放置します。

エンジンスターター本体から「ピーピー」という音がして、グロー時間が3秒に設定され、鳴り止みます。



ステップ
4

キーをOFFにします。

以上でグロー時間の切替は終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

ドアスイッチ配線を行う場合

ドアスイッチへの配線を行うことにより、リモコン始動でのアイドリング中に、ドアを開けるとエンジンを停止させることができます。なお、ドアタイマーを設定している場合は、20秒後にエンジンが停止します。詳しくは、15ページの「ドアタイマー機能について」を参照して下さい。

注意

すでに付属の安全センサーケーブルがエンジンスターター本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。安全センサーケーブルは、必ず本機に同梱されたものを使用して下さい。他の商品のものを流用することは出来ません。

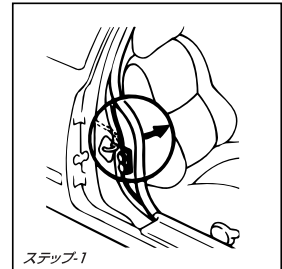
ステップ 1

車の運転席側ドアスイッチ線を探します。

ドアを開けたときは0V、閉めたときに5~12Vとなる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)

メモ

半ドア警告灯および、ルームランプの点灯をさせるためのスイッチです。全てのドアを検出させる場合は、下記「全席ドアを検出させる場合の配線方法」を参照して下さい。



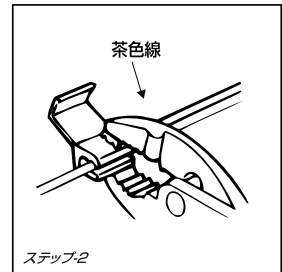
ステップ 2

安全センサーケーブルの茶色線を接続します。

安全センサーケーブルの茶色線先端のギボシ端子部をニッパ等でカットし、ステップ1で見つけた線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)

注意

接触不良が起きないように確実に取り付けて下さい。ドアスイッチ検出がうまく行われない場合があります。なお、エレクトロタップ部は、防水のためテーピングをして下さい。



ステップ 3

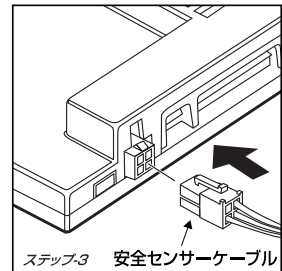
安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部(CN2)に接続します。

以上でドアスイッチ配線は終了です。

リモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けたときにエンジンが停止することを確認して下さい。

メモ

残光式ルームランプ付車では、ドアを閉めてルームランプが完全に消えてから数秒後にリモコン始動を行って下さい。



全席ドアを検出させる場合の配線方法

全席ドアを検出させる場合には、下記に従い追加配線を行って下さい。全席ドア検出配線には、エレクトロタップ・ダイオードユニット・延長コードが別途必要となります。なお、ダイオードユニット・エレクトロタップは、お近くのカーショップ等で必要な分をお買い求め下さい。

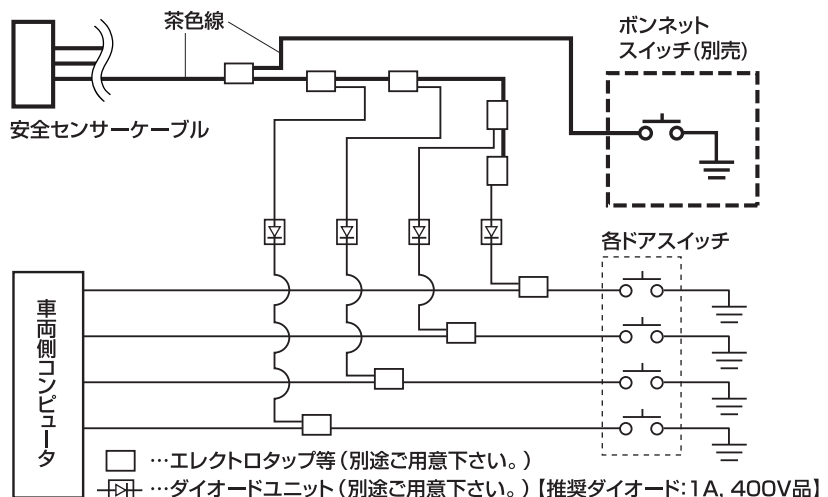
- ① 運転席ドアスイッチ線を探す要領で、他のドアスイッチ線を探します。
- ② 別途ご用意したダイオードユニットとリード線で①で探した線に別途ご用意したエレクトロタップ等でそれぞれ接続します。
- ③ 配線した各ダイオードユニットを安全センサーケーブルの茶色線に別途ご用意したエレクトロタップ等でそれぞれ接続します。

注意

接触不良が起きないように確実に取り付けて下さい。

またダイオードユニットの向きを間違えないように配線して下さい。検出がうまく行われない場合があります。接続部は、防水のためテーピングをして下さい。

■全席ドア検出接続概念図■



ボンネットスイッチ(別売)を取り付ける場合

ボンネットスイッチ(別売)の取り付けを行うことにより、ボンネットが開いているときのリモコンでのエンジン始動が出来なくなり、エンジンルーム内での各種作業中の安全を確保出来ます。出来るだけボンネットスイッチの取り付けを行って下さい。取り付けに関しては、ボンネットスイッチに付属の取扱説明書をよくお読み下さい。

ボンネットスイッチ(別売)取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う場合

ボンネットスイッチ(別売)取り付けとドアスイッチ配線の両方を行うことで、ボンネットが開いたり、ドアが開いたりしているときは、エンジンが動作しないよう安全確保が出来るようになります。

注意 安全センサーケーブルの茶色線は、ボンネットスイッチとドアスイッチの検出を併用するようになっております。両方を配線する場合には別途エレクトロタップ*を1個ご用意頂くこととなりますので、あらかじめお買い求め下さい。*【推奨品:自動車用低電圧線(AV線)0.5mm²サイズ適応品】

ステップ1 車の運転席側ドアスイッチ配線をして下さい。

19ページの「ドアスイッチ配線を行う場合」の作業をステップ2まで行った後、以下の作業を行って下さい。

ステップ2 ボンネットスイッチを取り付けます。

ボンネットスイッチ付属の取扱説明書をよく読み、エンジンルーム内のボンネットスイッチ設置・取り付け作業まで行って下さい。

ステップ3 安全センサーケーブルの茶色線を接続します。

ボンネットスイッチの茶色線をグロメット等を利用してエンジンルーム内から車室内へ引き込み、先端のギボシ端子部をニッパ等でカットします。すでにドアスイッチ配線をした安全センサーケーブルの茶色線にご用意頂いたエレクトロタップ等で接続します。

注意 接触不良が起きないように確実に取り付けして下さい。ボンネットスイッチ検出がうまく行われない場合があります。なお、エレクトロタップ部は、防水のためテーピングをして下さい。

ステップ4 安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部(CN2)に接続します。

以上でボンネットスイッチとドアスイッチ配線作業は終了です。

リモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けたときおよびボンネットを開けたときにエンジンが停止することを確認して下さい。

注意 ・ボンネットスイッチとドアスイッチ配線を併用した場合、ボンネットを開けると、半ドア警告灯およびルームランプが点灯するようになります。これは本機が車側の安全検出を行う回路により点灯するものであり、異常ではありません。
・整備等で長時間ボンネットを開けたままにする場合にはルームランプのスイッチを切して下さい。

オプション品(別売)のご案内

「適応車種一覧表・EGSシリーズ」をよく確認の上、必要に応じてオプション(別売)をご使用下さい。

●ボンネットスイッチ

車のボンネットが開いているときに、リモコンでのエンジン始動が出来なくなる安全装置です。

●日産キーロックアダプター

一部の車種でターボタイマーの作動中、キーが抜けなくなるのを防止します。
(中継ケーブルを使用しない車種にはご使用出来ません。)

●オートライトアダプター

オートライト装着車の一部車種で、ライトポジションがオート状態のままでも問題なく使用出来るようになります。

●ターボタイマーストール防止アダプター

一部の車種でキーをOFFにし、ターボタイマーを作動させる際、インジケータランプが一瞬点灯または点灯したままとなったり、エンジンがストール(停止)してしまうのを防止します。
(中継ケーブルを使用しない車種にはご使用出来ません。)

●イモビアダプター

一部のイモビライザー搭載車で、イモビライザー機能を損なわずエンジンスターターを取り付けることが出来るようになります。

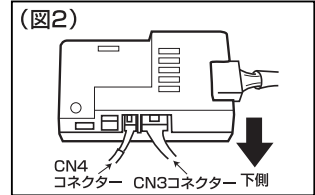
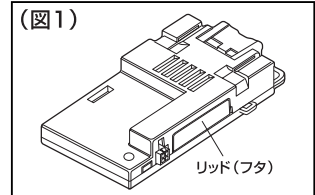
オプション品（別売）接続時の注意事項

一部のオプション品取り付け作業において、エンジンスターター本体のリッドを外す必要があります。オプション品に付属の取り扱い説明書および、下記の事項をよく読んでから作業して下さい。



警告

- オプション品を取り付ける場合、エンジンスターター本体のリッドを外す必要があります（図1）。それ以外では絶対に外さないで下さい。必ずエンジンスターター本体のコネクター部（CN1）を外してからリッドを外して下さい。そのまま作業しますと、電源ショート等により故障したり発火する恐れがあります。
- リッドの取り外しは精密ドライバー等で端からはがすように行って下さい。
- リッドを外してオプション品を取り付けた後、エンジンスターター本体を設置する場合は、CN3、CN4コネクター面が必ず下を向くようにし、異物が入らないようにして下さい（図2）。



メンテナンス

電池の交換方法

リモコンは新品の電池で約2000回*以上使用出来るように設計されております。使用中、電波到達距離が短くなってきたら電池を交換して下さい。また、商品に添付されている電池はテスト用のものですので、2000回以内に電池交換が必要になる場合があります。

*使用状況や環境によっては、これよりも短くなります。

ステップ 1

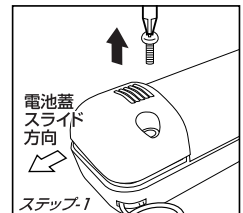
電池蓋を外します。

精密プラスドライバーでネジを外して電池蓋を少しスライドさせて開けます。



注意

外す際に、リモコン内部を損傷させたりしないよう注意して下さい。



ステップ 2

電池を交換します。（アルカリボタン電池LR43×2個）

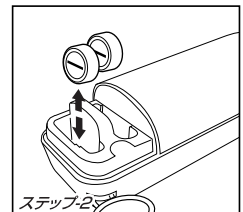
電池のプラス、マイナスの向きに注意して交換して下さい。

電池のマイナス面がリング側となります。



注意

- ・電池を交換の際は、2個とも新品の電池に交換して下さい。
- ・リモコンの電池端子部をさわったりしないで下さい。
- ・電池の表面に汚れや油分がつかないようにして下さい。



ステップ 3

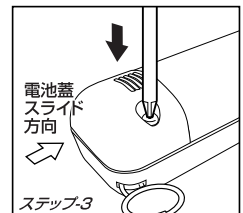
電池蓋を閉じます。

外したときと逆の要領で電池蓋を閉じます。



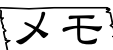
注意

- ・ネジを締めるときは、締めすぎたり、ゆるまないようきちんと締めて下さい。部品の紛失や損傷の原因となります。
- ・リモコン内部を損傷させたり、異物を入れたりしないで下さい。故障の原因となります。



リモコンを紛失したときは

リモコンを紛失または修理不可能な破損をした場合は、リモコンのみの購入が出来ます。新しいリモコンは、販売店または取扱店へご注文下さい。



リモコンのID登録はエンジンスターター本体側の操作で行います。従って室内アンテナやエンジンスターター本体をお送り頂く必要はありません。なお、登録出来るリモコンは1台分のみとなりますので、元のリモコンは使用出来なくなります。（スペアリモコンとしての設定は出来ません。これは2003年12月26日付国土交通省発表の安全対策についての指導に基づいています。）

オプション

その他

故障かな？と思ったら

このような時	チェックして下さい	処 置
リモコンのSTARTスイッチを押してもLEDが点灯しない。	スイッチを押す時間が短くありませんか？	0.5秒以上スイッチを押して下さい。
	リモコンの電池は消耗していませんか？	電池を新品に交換して下さい。
リモコンのスイッチを押してもまったく作動しない。	車のキーがONになっていませんか？	キーを抜いて下さい。
	車のバッテリー端子が外れていませんか？	端子を接続し「オートマチック車の登録」を行って下さい。
	15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか？	スリープモードになっています。キー操作でエンジンを始動させて下さい。
	車のバッテリーは弱っていませんか？	バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
	ドア配線先は間違っていますか？	適切な場所に接続し直して下さい。
	ドアまたはボンネットが開いていませんか？ (配線を行った場合)	ドアまたはボンネットを閉めて下さい。
リモコンのSTARTスイッチを押すとエンジンスターター本体から「プープー プープー…」と音がして数分後に鳴り止みリモコン始動しない。	バッテリー端子を外したり、バッテリー交換を行いましたか？	オートマチック車の登録情報が消去されています。再度「オートマチック車の登録」を行って下さい。 詳しくはP.8を参照して下さい。
	ヒューズ交換、専用ハーネスとのカプラー脱着及び黒色アース線の再接続を行いましたか？	
リモコンのSTARTスイッチを押すとメーターパネルは点灯するが始動しない。	車のシフトレバーはPレンジになっていますか？	シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
	車のバッテリーは弱っていませんか？	バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
	専用ハーネスのアース線は車体の金属部分へ確実に接続されていますか？	適切な場所に接続し直して下さい。
	オルタネーター(L端子)配線先は間違っていますか？	適切な場所に接続し直して下さい。
リモコンのSTARTスイッチを押すと始動動作中にエンジンスターター本体から「ピーピーピーピー」と音がして停止してしまう。	専用ハーネスのアース線は車体の金属部分へ確実に接続されていますか？	適切な場所に接続し直して下さい。
	車のバッテリーは弱っていませんか？	バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
リモコンのSTARTスイッチを押すと始動動作を行うが、エンジンがかからない。	オルタネーター(L端子)配線を行いましたか？	オルタネーター(L端子)配線を行って下さい。 詳しくはP.16を参照して下さい。
	オルタネーター(L端子)配線先は間違っていますか？	適切な場所に接続し直して下さい。
	車のバッテリーは弱っていませんか？	バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
	専用ハーネスのアース線は車体の金属部分へ確実に接続されていますか？	適切な場所に接続し直して下さい。
始動距離が短くなった。	リモコンの電池は消耗していませんか？	電池を新品に交換して下さい。
	リモコンのアンテナは伸ばしてありますか？	リモコンのアンテナを伸ばして下さい。
	リモコンのアンテナに体の一部が触れていませんか？	操作の際はアンテナに触れないようにして下さい。
ターボタイマーが作動しない。	ターボタイマーの設定をしましたか？	ターボタイマーの設定をして下さい。
	車のエンジンを30秒以上かけましたか？	30秒以上エンジンをかけて下さい。
	車のシフトレバーはPレンジになっていますか？	シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
リモコンのSTARTスイッチを押してもエンジンが始動せず、警告音「ピーピーピー…」が鳴り続ける。	車のシフトレバーはPレンジになっていますか？	シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
	車のキーがACCになっていませんか？	キーを抜いて下さい。
	専用ハーネスの品番は正しいですか？	「適応車種一覧表・EGSシリーズ」を再度確認して下さい。車の車種名・年式・型式を照合後、品番が正しい場合は当社技術サービスまでお問い合わせ下さい。 ★警告音はキーをONにすれば停止します。

エンジンスターター本体のブザー音について

(オートマチック車登録、キー始動学習を除く)

ブザー音	意味
ブブッ(ブブブッ)	リモコンでエンジンが始動した場合。
ブッ ~ プー	リモコンでエンジン駆動中。 リモコンでエンジン始動直後から数秒間隔で鳴り始め、残り時間に連動して短くなります。 自動停止直前(1分前)は連続音になります。
ピーッ	ドア開、ボンネット開放の安全対策によりエンジン始動が出来ない場合。
ピーピーッ	リモコンでエンジンが始動しない場合。
ピーピーピーッ	リモコンでエンジン駆動中にエンストした場合。
ピーピーピーピーッ	専用ハーネスの黒色アース線接続状態、またはバッテリーの状態が悪い(悪くなった)場合。
ピー・ピー…… (繰り返し)	車との相性が悪い(悪くなった)場合。 *当社技術サービスへお問い合わせ下さい。 ★警告音はイグニッションキーをONの位置にすれば停止します。

●リモコン

■型式名	TX-09M
■技術基準	ARIB STD-T67特定小電力無線局 テレメータ・テレコントロール・データ 伝送用無線設備
■送信周波数	426.075MHz
■通信方式	単向通信方式
■送信出力	1mW以下
■電波方式	F1D
■周波数安定度	±4ppm以下
■周波数偏移	±2.5KHz以内
■スイッチ	START/STOP
■送信時間	約1秒
■送信アンテナ	内蔵ロッドアンテナ
■制御コード	アドレスコード32ビット/ コントロールコード8ビット
■動作温度範囲	-20°C~+60°C
■定格電圧	DC3V
■使用電池	アルカリボタン電池 LR43×2個
■電池寿命	電池交換無しで2000回以上使用可能
■外観寸法	59.5mm(H)×23mm(W)×17mm(D) 突起部は除く
■重量	約22g(電池を含む)

●エンジンスターター本体

■型式名	RX-09M
■受信周波数	426.075MHz
■局発安定度	±4ppm以内
■アンテナ	λ/4室内アンテナ
■動作温度範囲	-20°C~+70°C
■復調コード	アドレスコード32ビット/ コントロールコード8ビット
■電源電圧	最低動作電圧DC8.5V 最高動作電圧DC16V
■消費電流	通常待機時平均電7mA以下
■始動検出	専用ハーネス(自動) オルタネーターL端子(選択)
■安全対策	パーキングポジション(自動) ドア開放(任意)、ボンネット開放(任意)
■タイマー	20分自動停止(設定により5分/30分変更可能)
■外観寸法	26.5mm(H)×110mm(W)×70mm(D) 突起部は除く
■重量	約140g

※仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

〈保証規定〉

本商品は、厳重な品質管理のもとに製造され、検査に合格し、出荷されておりますが、お客様の正常な状態でのご使用中、万一故障が発生した場合には、本保証書に記載の内容に基づき、無償修理をさせていただきます。

●修理は、お買い求め頂いた販売店に、本保証書および不具合内容等を記入したメモ等を添えてご依頼願います。
また、修理の際は必ずリモコンとエンジンスターター本体をセットでお渡し下さい。(リモコンのみでは修理できません)

●本保証書は日本国内に於いてのみ有効です。This warranty is valid only in japan.

●本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管して下さい。

なお、下記に該当する場合は、保証期間内であっても保証の対象とはなりませんのでご注意下さい。

- 1.お客様の故意または過失による故障と認められた場合。
- 2.商品を分解したり改造したりした形跡が認められた場合。
- 3.火災、天災、事故、その他紛争等による損傷。
- 4.適応外車両へのお取り付けや当社専用ハーネスをお使いになっていない場合。
- 5.取付・取扱説明書中の注意事項を守られなかったことにより発生した故障、損傷等。
- 6.保証書の添付がないか、あるいは記載事項に不足がある場合。

●消耗部品(電池、アンテナ等)やリモコンのケース破損は保証対象外です。

●修理によって生じた交換部品は原則としてお返しいたしません。

●本商品の製造終了後3年以降は使用電子部品の製造中止等により修理不能になる場合がありますので予めご了承下さい。

※保証期間経過後の修理については、当社技術サービスまでご相談下さい。

修理によって機能の維持が可能な場合は、お客様のご要望により有償修理致します。

アフターサービスについて

使用中に正常に動作しなくなったとき:まず本文の「故障かな?と思ったら」を参考にしてチェックして下さい。「処置」を行っても改善が見られないときは、お買い上げ店、または当社技術サービスにお問い合わせ下さい。

保証をお受けになる場合:お買い上げ店に不具合内容を具体的に提示の上、リモコン、室内アンテナ、エンジンスターター本体をセットにして、車検証のコピー、保証書と共にご依頼下さい。なお、保証範囲につきましては、保証規定をご覧ください。

保証対象外の修理について:保証期間を過ぎた場合や、使用上の不注意による故障等、保証の対象にならない場合の修理については、有償となります。詳しくは保証規定をご覧ください。

リモコンエンジンスターター EGS-M4 取付・取扱説明書

製造・発売元

株式会社 **ミツバサンコーワ**

〒376-0102 群馬県みどり市大間々町桐原3546-1

●お取り付け等、技術的なお問い合わせ窓口/株式会社ミツバサンコーワ 技術サービス

TEL.0277-72-4588

Y-24121-00